

目標言語から母語への逆向転移の実例 ― 日本語から中国語へ

Instances of TL to L1 Backward Transfer-from Japanese to Chinese

羅 沢宇

英語・中国語教育センター

LUO Zeyu

The English and Chinese Language Education Center

外国語学習者の母語使用に、学習する目標言語の痕跡がよく観察される。しかも、不特定多数の人と会話する場面や改まった場面、文章や書物からも容易に観察されるなど、単なるコードスイッチングや借用では解釈しきれない側面があり、最近目標言語から母語への干渉 (backward transfer) という視点が提案されてきた (例えば Cook2003 など)。

ただし、この分野の研究はまだ浅く、日中両国においても蓄積がほとんどない上に、特定の訳語すら定着していない。本稿は、まずその干渉の現象を「逆向転移」と命名し、2011 年から収集した目標言語 (本稿では日本語) が母語 (中国語) に与える影響の用例の一部を提示し、具体的にどこに目標言語の影響があるのかを分析する。一部の用例には、自然であると判断される度合いなど、筆者が行うもう一つの調査の結果を併せて提示することによって、体系的な研究がまだない中国人日本語学習者に見られる「逆向転移」現象の初歩的な解明を試みる。

We can find traces of target language from the use of the first language of foreign language learners. Even in formal situations, or in conversations before the general public, or in articles or books, can we easily find this phenomenon. Nowadays, some researchers suggest it is a sort of transfer, called "backward transfer" (ref. Cook2003).

The study of this field is still in its early stage, so we can hardly find preceding studies in Japan or China. There is even no established Japanese or Chinese equivalent for "backward transfer." Thus this paper attempts to rudimentarily elucidate the Japanese to Chinese backward transfer, which has still not been systematically studied. In this paper, the author names it as "gyakkoukansyou" in Japanese, presents instances of target language (Japanese in this paper) to first language (Chinese) transfer and analyzes what the unnaturalness is. Some results of another survey conducted by the author, such as the ratio of naturalness of some of the instances, are also presented.

1 はじめに

グローバル化が進む中、外国語¹⁾の習得は以前にもまして活発に行われており、世界の隅々まで浸透しつつある。いまや、一生のうち自分の母語²⁾しか使用したことがない人よりも、二つまたはそれ以上の言語³⁾を習得し、教養・人的交流・ビジネスなど様々な目的をもって、教室や実生活などの場面で、母語以外の言語を使用した / している / しようとする人のほうがむしろ多いと言えるかもしれない。イギリスの言語学者 Vivian Cook 氏は、英語を例としてこのように述べている。

Monolingual native speakers are far from typical of human beings and are increasingly hard to find in the world, even in the highlands of Papua New Guinea. While it may be hard to prove that L2 users actually make up the majority of human beings, they at least form a very substantial group. (Cook 2003:4)

(モノリンガル (1 か国語しか話せない人) は典型的ではなく、パプア・ニューギニアの高地においてすら簡単に見つからなくなった。世界範囲で第二言語使用者の数が絶対的優位にあることは実証できないかもしれないが、少なくともかなりの比重を占めているのは間違いない。)⁴⁾

このようなバイリンガル (二言語使用者)、トリリンガル (三言語使用者)、ないしマルチリンガル (多言語使用

者) の増加に伴い、モノリンガルで構成される言語共同体の内部では起こり得ない、さまざまな事象が観察されている。個人レベルでは、例えば母語干渉 (interference of mother tongues) やコードスイッチング (code-switching)、言語全体のレベルでは、ピジン語 (pidgin) の創出と使用、クレオール語 (Creole) の形成、また日本では、外来語⁵⁾の濫用、方言の絶滅危機などの問題などがよく知られている。しかし、上記のどちらにも属さない類の実例がある。

例えば、日本語学科の学生が実際に使用している中国語 (特に断りがない限り、共通語の普通話⁶⁾ を指す。以下同) に下記のような例が観測された。(2 例とも日本語がわからない不特定多数の人に向けて)

- 1) * 今天的英语课轮到我发表。⁷⁾
(今日の英語の授業は私の発表の番だ。◁ 括弧の中は、筆者が推測した発話者が言おうとする内容である。以下同) 20 代女性 / スピーチ場面
- 2) * 两千一二年
(2012 年) 20 代女性 / スピーチ場面

例文 1) は下線部を「(上台) 发言 / 做报告」にしたほうが自然であり、例文 2) は「二零」のほうが本来の「正しい」言い方である。

上記の 2 例からは、日本語の言い方の影響 (「発表」、「二千十二年」) が窺える。日本語がわからない相手に対して発話しているため、単なるコードスイッチングとしては考えにくい。また、事後確認すると本人も日本語の表現をすっかり使ってしまったことを認めた。加えて、上記よりも正式な場面においても例 1) のような用例が見られる。

(図1⁸⁾、詳しい分析は4章に)。

3) *○○主題店舗开店发表。



図1

2 先行研究

それでは、こういった事象をどうやって解釈すればよいのだろうか。

最も有力の解釈として「逆向転移 (reverse/backward transfer)」という考え方がある。

母語と外国語を取り上げる研究の中では、第二言語習得 (SLA) という研究分野が研究者の関心を集め、その中心となっている。さらに、そのうち母語の特徴が外国語の習得に影響を及ぼす現象、すなわち「転移 (transfer)」の問題、特に悪い影響——「負の転移」あるいは「母語干渉」 (interference of mother tongues) は、初期の対照分析から今日の間言研究まで、常に中心的課題の一つである。

最初にこのような影響を「干渉 interference」という言葉を用いて説明したのは Weinreich 1953 であるようだ (Cook 2003: 1)。Weinreich 氏は「干渉」についてこう述べている。

those instances of deviation from the norms of either language which occur in the speech of bilinguals as a result of their familiarity with more than one language (Weinreich 1953: 1 初出、Cook 2003: 1 再掲。下線は筆者による)

(2つ以上の言語に精通しているということの結果、すなわち「言語接触」の結果によって二国語併用者の言語行動に現れる各言語の標準から逸脱する事例のことを「干渉 (interference)」の現象という。)(訳文は神鳥 1976: 1 により、下線は筆者による。一部句読点変更。)

つまり、バイリンガル⁹⁾に見られる言語間の影響は、「母語から外国語 (厳密には中間言語体系) へ」という一方的なものではなく、「外国語から母語へ」という可能性も十分ありうる。しかし後者は、今日に至るまで、あまり重視されてこなかった。実際、言語学の革命とも言われるチョムスキー氏によって 1950 年代半ばに創始された変形生成文法 (generative grammar) を始めとする一連の研究も、母語話者の内省によって成立し、純粋で不変な母語という理想的なものを追究するものであった。

しかし、すでに述べたように、母語もブレるし、変わるのである。外国語が母語に与える影響 (reverse/backward transfer) に焦点を当て議論した最初の論著は上記の Cook (2003) であろう。約 13 本の論文によって構成されており、そのほとんどが、2001 年 Wivenhoe House ホテルにて開

かれたワークショップで各国の研究者によって発表された論文である (同: 1)。編集者である Cook 氏も、自身が提唱したマルチコンピテンス (multi-competence) という概念を外国語が母語に与える影響に適用し、研究する際の枠組みとして提示している (同: 5-11)。

しかし、残念なことに、Cook (2003) には中国語を研究対象にした論考がなかった。さらに、学会の予稿集という性格上、体系を立ててこの現象を論じることができなかった。(そもそもそれを意図していなかったかもしれない。) なお、中国と日本においても、管見のかぎり、外国語が母語に与える影響を研究対象にする考察は決して多いとは言えない。

数少ない中国語に関する研究も、英語をはじめとするヨーロッパの言語によるいわゆる「欧化現象」の研究がその大部分を占める。例えば、王力が最初に発表した一連の研究 (王 1955 など) や賀 (2008)、朱 (2011) などがそうである。しかし、中国語と日本語は言語体系が大きく異なっているものの、地理的に近いことから、長期に亘る盛んな交流の結果、言語間接触による相互影響が極めて大きいというのは周知の事実であろう。しかも、漢字という書記の媒体を共有しているため、英語/中国語や日本語/英語といった異なる書記媒体の言語よりも、相互影響がはるかに複雑で大きいと予測できよう。要するに、「欧化現象」を研究する前に、まず「日化現象」を議論しなければならないということである。ところが、書記システムが漢字であるせいか、つい最近まで日本語の影響がずっと見落とされてきたのである (詳しくは沈 2011 など)。

したがって、本稿は、まず蓄積の少ない外国語の習得 (本稿では日本語の共通語) が母語 (本稿では中国語の普通話) に与える影響の実態提示と初歩的分析を第一の目的にし、その原因の追究とメカニズムの解明は紙幅の関係で次号以降に譲る。

3 いくつかの用語

4 章以下において論を進めるために、改めて下記のいくつかの用語の定義を確認したいと思う。

3-1 母語/母国語/第一言語 (L1)

注2ですでに検討したように、「幼時に母親などから自然な状態で習得する言語」という意味合いで「母語」、最初に獲得した言語という意味合いで「第一言語 (L1)」¹⁰⁾、母国の言葉という意味合いで「母国語」と、互いに似ているようだが、それぞれ指す領域にずれがある。

それから、ある言語を一つの言語とみなすか、同一言語体系にある方言とみなすかについては、言語学的にも簡単に判断できない場合が多い。そもそも、言語に区切りをつける場合は、言語学的根拠よりも、国や都市・集落の境界線など、社会的、政治的根拠によるところが大きい。

そこで、本稿は、議論を単純化することと調査の再現性などを配慮し、研究対象を中国語の普通話と日本語の共通語に限定する。よって、本稿でいう「母語」と「母国語」は (また広い意味での「第一言語」も)、中国語の普通話指す同義語と考えて差し支えない。なお、本文の中ではすべて「母語」という言い方に統一する。

3-2 外国語／目標言語 (TL) ／第二言語 (L2)

同じく、「外国語」という言い方も、政治的または社会的に国と国の境界線を意識するものであり、「母国語」の対義語である。それに対し、「目標言語 (TL)」は学習しようとする言語のことを、「第二言語 (L2)」は「第一言語」を獲得した後、二番目獲得／習得¹¹⁾した言語のことを指す。したがって、同じ中国語 (普通話) であっても、獲得／習得の対象により、例えば、中国の朝鮮族にとっては第二言語、韓国人にとっては外国語という差が生じる。

しかし、本稿では「外国語」も「目標言語」も (広い意味では「第二言語」も)、いずれも日本語の標準語を指し、議論の単純化を図る。なお、本文の中では「目標言語」に統一する。

3-3 負の転移／逆行転移／逆向転移

第2章ですでに言及したが、第二言語習得の分野では、母語の特徴が目標言語の習得に影響を及ぼす現象を「転移」という。転移には正と負の二種類があるとされ、目標言語の習得にプラスに影響する場合は「正の転移 (positive transfer)」、マイナスに影響する場合は「負の転移 (negative transfer)」、あるいは「(母語) 干渉 (interference)」という¹²⁾。

つまり「負の転移」は目標言語の習得過程における母語のマイナスな影響を指す。それに対して、本稿で考察する事象は「backward transfer」あるいは「reverse transfer」と呼ばれるが (Cook 2003: 1)、日本での研究はまだ少ないため、適切な和訳がまだ定着していない。

比較的新しいものである鈴木 (2013:1) では「逆行転移」と訳したが、本稿では、心理学用語の「逆行抑制 (retroactive inhibition) ／逆行干渉 (retroactive interference)」¹³⁾に倣い、「方向が逆」という意味合いで「逆向転移」と呼ぶことにする。

なお、俞ほか (2012) では、その中国語を「逆向迁移」と訳した。

4 逆向転移の実態——目標言語日本語から母語中国語へ

本章では、逆向転移という現象について、実際どのような実例があるのか、書き言葉の用例を中心に、検討したいと思う。

まず用例の出所として、

1(a、筆者が実生活やインターネットから収集した表現 (単発的な用例)¹⁴⁾

1(b、筆者が実生活やインターネットから収集した表現 (まとまった文章から)

- 2、某教科書 (2007 年版) の序文
- 3、某学術書 (2010 年版) の第一章
- 4、某辞典 (2003 年版) の「あ」部

と、4つの部分に分かれる。そのうち、単発的なもの (1(a)を除いて、すべて本研究が本格的に発足した 2011 年以降の半年間に収集したものである。

1(b~3 は、最初の一文から最後の一文まですべて用例抽出と結果集計の対象とした (全数調査)。

表現が自然であるかどうかに関して、筆者 (調査当時

20 代、上海市出身) の判断と辞書や文法書の記述、あるいはコーパスの検証結果をもって判断するが、具体的な記述のない文例や文章構成など、先行研究などではどうしても調べきれない内容に関しては、筆者と出版社勤務のインフォーマント (調査当時 30 代、吉林省出身)、それから教師を務めるインフォーマント (調査当時 50 代、上海市出身) 3 人の意見によって判断する。

なお、収集した用例の一部は 2011 年 9 月～2013 年 3 月まで断続的に実施された調査 (以下 2011 調査と呼ぶ) の質問文にもなっているため、その例が自然かどうか、不自然と判断した場合どういう部分が不自然なのか、集計や自由添削のデータとも照合した。

勿論、文章の直し方には個人差があり、不自然なところが複数存在する場合は尚更複雑になってくる。したがって、本稿で指摘しているいわゆる「間違い」とその訂正の仕方はあくまでも代表的な直し方の一つと理解してもらえれば幸いである。

また、不自然な表現が現れる理由として、本稿は日本語との接触に焦点を当て論じており、調査用の文例もできるだけ日本語から来ている痕跡が顕著に出ているものにするよう注意したが、もちろん日本語との接触以外にも、例えば単なるケアレスミス、習慣の問題、方言の影響、ないしほかの外国語の影響 (義務段階で導入される英語の可能性が高い) などとも考えられるかもしれない。しかし、一つ一つの表現に対してすべての要素を精査し、本稿の論点以外の要素を完全に排除することは極めて困難で不可能に近い。結果として本章の結論等はあくまでも非常に可能性の高い推定であり、ほかの要素を否定し排除しているわけではないということを留意してもらいたい。

4-1 具体的な用例

まず第1章で紹介した例文から見てみよう。(なお、例文 3) 以降は、統計結果のタイトルを省略し数字だけ記す。未調査の場合は × で示す。)

1) * 今天的英语课轮到我发表。

(今日の英語の授業は私の発表の番だ。)

2011 調査で日本語未習得かつ日本語との接触がほとんどない被調査者が自然と感じる割合%	2011 調査で日本語習得者を含めた被調査者全体が自然と感じる割合%	出所
9.7 /	58.1 /	1(a)

それから、前掲した例 3) は実は上海での日本のあるコンビニチェーンの新店舗開店発表会の時の様子である (図 1)。

3) * ○○主題店铺开店发表。 × / × / 1(a)
(○○テーマ店舗開店発表)



図 1 再掲

現代中国語の「发表」には「意見・声明・談話などを公表する」という使い方と「新聞や雑誌などに載せる」という使い方があるが、例 1) のような（意見や声明でもなく）みんなの前でなにかについてプレゼンテーションをする場合や、例 3) のような開店の宣伝などの場合などは、そのどちらにも当てはまらない。開店発表会の場合なら、「（新聞）发布会」のほうが自然な中国語であろう。

また、例 1) の統計結果を見れば一目瞭然だが、日本語習得者と未習得者の間に、この文章が自然かどうかの判断に関して、50%近くのギャップがある。習得者は、自ら発言するわけでもなく、相手の発言の適格性を判断する場合でも、外国語から大きな影響を受けていると言えよう。

なお、例 3) には、「发表」の使い方以外に、もう一箇所不自然なところがある。それは「开店」という表現である。「店」は店で、「開」は「開く／開ける」という日本語と同じ意味だが、「开店」という表現は「箱を開ける／教科書を開く」のような「動詞＋目的語」の組み合わせにすぎない。つまり、中国語の「开店」は、日本語の「開店」のような名詞化はしておらず、基本的に「主語＋（“在”＋場所）＋“开店”」の形で使われ、「～発表会」の連体修飾語としては使えない。当然、辞書にも基本的には収録されていない。文体的にも口語的色彩が強い。「（新聞）发布会」（発表会）と組み合わせる場合は「开业／开张」のほうが自然であろう。

しかし、この少し変わった「开店」の使い方は日系企業のチラシやホームページによく登場している。例えば、（図 2）

4) * 中国〇〇成功开店 50 家 × / × / 1(a)

（〇〇中国はあわせて 50 店舗の開店に成功した。）

この図 2 の中の表現には、「开店」以外に、「发现祭」、「活动期间」などの中国語らしくない表現もあるが、紙幅の関係で説明を省く。

发现祭

中国无印良品 成功开店50家

【活动期间】8月24日(周五)～9月1

図 2

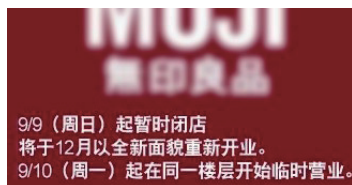


図 3

さらに面白いことに、「开店」の反対語として中国語にない「闭店」（閉店）という言葉が使われている（図 3）。本来なら「关门」か「停（止营）业」と書かれるべきであろう。

5) * 9/9 (周日) 起暂时闭店 × / × / 1(a)

（9 月 9 日日曜日から暫く閉店）

例文 6) からは、議論を深めるために、不自然な表現を ①表記の問題（記号や文字の混淆など）、②語彙の問題（語

彙の借用、混用、無理に訳語を作るなど）、③文法の問題（語順の問題や文構成項の不足・追加など）、④文や文章レベルの問題（接続や因果関係の問題、文体など）に分けて説明する。

6) * ③作为语言表现②丰富的日语国語辞典①，得到了许多人的支持。③应广大学习者要求，收录了附有音调音标的国語词典①。 35.0 / 28.0 / 1(a)

（言語表現が豊富な日本語国語辞典として、多くの支持を得た。学習者の要望にこたえ、アクセント表記のある国語辞典を収録した。）

例 6) の問題として、まず同じ文章の中で、「辞典」と「词典」がまったく同じ意味として両方出ている（①）。現実には中国で出版される辞書はタイトルに「词典」が多いのに対して、日本で出版される辞書は「辞典」という表記が基本的であろう。ここに出てきた表記の揺れは日本語による影響と考えても十分可能であろう。それから、名詞として使われる中国語の「表現」は、例えば、

7) 他在学校的表现很好。

（彼は学校では優等生だ。）

のように、「行為などに見られる態度、現われ」という意味で使われる。それに対して、日本語の「表現」は「representation」および「expression」の訳語として誕生したのも有名な話である。したがって、日本語の「（言語）表現」のような「expression」に相当するものは、中国語では「表現」ではなく、「表达（方式）」で言わなければならない（②）。文法の面では、二つの文とも主語がなく、そのうえ前の文と後ろの文では本来の主語が変わっている（③）。前半は辞書が主語となり、後半は恐らく出版社が主語となっているため、中国語の場合では両者とも主語が必須である。特に主語（あるいは主題）に関しては、日本語のほうが中国語よりずっと融通が利くとされているし、推測できる場合はむしろ省略したほうが好まれるとさえ言われている。

なお、統計の結果からみて、この文に関しては、日本語未習得者のほうが自然な中国語であると判断した割合がわずかに高く、習得者よりも判断基準が緩いように見えるが、実はもうひとつ、「文章が意味不明」と判断した人の割合を調べたところ、日本語習得者の 20%に対して、未習得者は 30%に上る。つまり、主語が無理やり省略されたことなどによって、3 割の日本語未習得者にとって、言語本来の最も肝心の意味伝達の働きが機能しなくなったと言えよう。

日本語にある同形異義語をそのまま中国語に使う例をも一つ見てみよう。

8) * 会议除③日语讲解外，还配有中文翻译。请大家安心②。 41.9 / 49.4 / 1(b)

（会議は日本語で説明する以外、中国語の通訳もついている。ご安心ください。）

中国語の「安心」は「気持ちが落ち着いている」という意味で使われ、「心配しなくてもよい」と言いたい場合は基本的に「放心」という表現を使う（②）。

また、「日本語で説明する」の助詞「で」は方法・手段を表す。その場合、中国語基本的に動詞を用いて表現する。例えば、

9) 骑自行车来的。

(自転車^①で来た。)

しかし、本来必要な動詞「用」は、ここでは抜けている。(③)

10) * 用了几个不同的网站。^①得到^②的开车时间非常不同。请问我应该依赖^②那一个做我的计划呢？ 0.0 / 2.7 / 1(a)
(幾つかのサイトを使ってみましたが、得られた発車時間はそれぞれ違います。どれに頼って旅行計画を立てるべきでしょうか?)

例 10) は未習得者が 100% 不自然とを感じる例文である。まず①のところは、句点ではなく読点のほうが自然だが、日本語の影響かどうかは判断できない。しかし、「得到」と「依赖」は恐らく「得られる」と「頼る」の影響を受けたものであろう(②)。中国語の「依赖」は「自立せず人に頼る」、「依存する」といった主に好ましくない場合に用いられるのでこの文脈では使えない。ただし、この「依赖」という表現は、例 6) と 8) と少し異なり、「頼る」そのものを使ったわけではないので、発話者が「翻訳」に近い過程を経て(頼る→依赖)作られたのではないかと推測できる。

余談だが、現代中国語の標準語である普通話の根幹の「模範となる現代白話文の著作」に魯迅の文章があるが、魯迅もまた著作にいわゆる「硬訳」語が大量にあることで知られる。しかも、周知のごとく、魯迅に日本留学の経験があり、日本語のレベルも夏目漱石の小説を翻訳し出版するほどだったので、「硬訳」のもうひとつの性格はもしかしたらここで挙げた「依赖」の例と同じかもしれない。

この例に近いもう一つの用例がある。

11) * 于〇〇年在〇〇出版的《〇〇》，出版时是日本唯一一部〇〇词典，得到^③日本的汉语教学者和学习者的普遍使用^③，目前… 40.0 / 50.7 / 1(a)

(〇〇年〇〇で出版された『〇〇』は、出版当時、日本で唯一の〇〇辞典であり、日本の中国語教育者と学習者によく利用されていた。)

中国語では「* 得到普遍使用」という言い方はまずしない(③)。かといって、日本語も「使用を得る」という言い方はしないが、「支持されている／評価されている」といった受け身表現は、「支持を受ける／好評を受ける」あるいは「支持を得る／好評を得る」と同義表現であるため、「利用されている／使用されている」も容易に「* 使用を得る」と連想されるのであろう。この「* 得到〇〇普遍使用」の言い方も「* 使用を得る」からきている可能性が高い。

12) * 〇〇年于〇〇大学^③外语系日语专业毕业^④，留校任教。 50.0 / 69.3 / 1(a)

(〇〇年〇〇大学日本語学科卒業、大学に残って教職に就いた。)

この例に関しては、まず日本語の構造と違って、前置詞「于」は「毕业」の後ろに置いて、「毕业于〇〇大学」にしたほうが普通である(③)。また、文章の前半と後半は関連性が薄いため(④)、前半の文に「后」をつけて「毕业后留校任教」にしたほうが自然であろう。

13) * 从去年起^④，〇〇联合会设立^②了^④中国留学生支援金^②制度。每年秋季，征集^②中国留学生支援金^②申请^④者。

41.9 / 44.4 / 1(b)

(〇〇連合会は去年から中国人留学生支援金制度を設け、毎年秋、応募者を募集している。)

この文の問題は、まず「支援金」をそのまま日本語から「借用」したのと、「制度を設ける」の影響で「* 设立制度」と

いう言い方、「募集」の影響を受け「征募」という言い方をういたことにある。「支援金¹⁵⁾」という単語自体中国語にはなく、「補助金」などの言い方をとる。そして、この文でいう「支援金」はおそらく「助学金」というべきであろう。また、「制度」は「建立」と連語関係にあり、「设立」は用いられない。しかし、日本語では「制度を設ける」ということから、この「* 设立制度」もまた翻訳を経て作られたと考えられる。そして、「征募」という言葉は中国語にもあるが、「兵隊／兵士を募集する」ことにしか使われていない。この文の場合は「征集／招收」といった言い方が自然であろう。(以上すべて②類)

もう一つの問題として、「去年から〇〇制度が設けられる」の中国語を「从去年起，〇〇设立了〇〇制度」にするのは論理的ではない(④)。動作や変化の実現済みを示唆する動詞接尾辞の「了」は「～から」を表わす「从～起」とは相性が悪く、普通共起しない。また「申請者」を「募集する」という言い方も中国語に直訳すると不自然になり、よく使われる表現として、視点を変えて「每年秋季申请申请」(毎年秋、申請を受け付ける)という言い方をとる。

14) * 今年的支援金^②颁发仪式，12月11日^④，凑巧于去年同日在〇〇举行。 22.6 / 15.6 / 1(b)

(今年の支援金授与式は、12月11日で、偶然にも去年と同じ日に〇〇で行われた。)

この文の問題は、「12月11日」という部分が前後ともつながりがないことにある(④)。文法成分を足すか、語順を変える(「今年の支援金颁发仪式于12月11日在〇〇举行。’)などの方法によって書き換えれば自然な文章になる。それに対して、日本語ではそのままで文は成り立つ。そして、細かいところに、日本語は主語のすぐ後ろに読点をつけても文法的に問題がないが、中国語では、主語が非常に長い場合を除き、主語の直後に読点をつけることはあまりしない(①)。この点に関しては、時間や場所を示す表現の後ろに読点をつけるのも少し不自然である。例 13) にも似たような問題がある。

15) * 联合会理事在11月3日，召开^②了中国留学生支援金^②面试，优秀的留学生让^③联合会的理事的最终选择^③而苦恼^②。 9.7 / 6.9 / 1(b)

(連合会の理事は、11月3日に、中国留学生支援金の面接会を開いた。優秀な留学生は理事を最終の選択で悩ませた。)

同じ句読点の問題(①)は例文 12) の部分ですでに説明した。次に、「召开」は、普通会議と組み合わせて、「会議を開催する」という意味で使われるので、面接を行う場合は使いにくい。この点に関しては、日本語の「開く」の影響が考えられる(②)。

また、「* 让联合会的理事的最终选择而苦恼」という部分も中国語らしくない。その原因について、少なくとも2点が考えられる。まず、語彙選びのレベルでは、中国語の「苦恼」は、実際「辛い思い(をする)」というニュアンスを帯び、単なる「迷っている」場合はあまり使われない(②)。似たような例として、文章に「不好办」や「困惑」が出てくるのも、「困る」という表現を中国語に直したからだと考えられる。

もう一つは、文法的に文を分解すればわかると思うが、「留学生」が「理事的最终選択」を「悩ます」という構造になっ

ている。本来中国語はこういう複雑な使役構造を取らず、「聯合会の理事们面对众多优秀的留学生难以做出最后决定」(連合会の理事は優秀な留学生を前に、なかなか最終決定を下せなかった。)という単純なSVO構造によって表現するのであろう(③)。

なお、上記の3例にある「支援金」については例13)を参照してもらいたい。

16) *近年^②、亦有很多年轻学者以近代中日词汇交流为研究对象^③撰写硕士、博士论文。 80.0 / 82.0 / 3

(近年、多くの若い学者が近代日中交流を研究対象に修士論文、博士論文を執筆している。)

この例に関して、まず中国語の「近年」は、日本語と違って「近年来」という言い方を取らなければならない。それから、「以…为…」という構造は日本語の「～を～に」の訳語に相当するが、本来中国語にない構造であるため、回りくどく聞こえる。「撰写近代中日词汇交流方面的硕士、博士论文」のようなシンプルなSVOを取ったほうが自然に感じられるのであろう。実際、この「以…为…」構造は代表的な過剰構造の一つとして、「以…为使用对象」、「以…为基础」といった多数の用例が収集された。

17) *在用日语写电子邮件时，你觉得什么地方比较难？

也许很多人会碰到这样那样的问题。不知用什么词句来写电子邮件才好；总是反复使用相同的词句写邮件；无法很好地来设计电子邮件的整体结构等等，诸如此类。^④电子邮件使用起来是很方便的，但是如果不使用符合自己目的的形式简单明了地来写电子邮件的话，就无法发挥电子邮件的便利性^②。同时，如若不使用与发送内容相应的遣词造句的形式^②，有时还会对收件人造成失礼^③。 最初の文× / × / 2、二番目の文 20.0 / 39.3 / 2、最後の文 20.0 / 39.3 / 2

(日本語でEメールを書くとき、難しいと思うのはどんなことですか。どんな言葉遣いで書けばいいのかわからない、いつも同じ表現ばかりになってしまう、全体の構成がうまくできない、といった問題に遭遇する人は結構多いと思います。Eメールは便利ですが、目的に合った構成でわかりやすく書かなければ、その利便性をいかすことができません。また、送信内容に相応しい言葉遣いを使わないと、失礼になる場合もあります。)

この例文には、②語彙の問題(「便利性」、「相应」、「遣词造句的形式」)や③文法の問題(「失礼」は名詞ではなく「礼を失する」といういわゆる「離合詞」構造)があるが、それよりも目立つのが文章の構成である(④)。日本語の訳文と対照すればわかると思うが、一応構造上、最後の動詞文を中国語らしく前にもってきたのだが、ただそれだけでは物足りない。ほかの構造がまだ噛み合っていないからである。最初の文を下記のように調整をすれば、自然になるのであろう。

18) 也许很多人会碰到不知用什么词句来写电子邮件才好、总是反复使用相同的词句写邮件、无法很好地设计电子邮件的整体结构等，这样或那样的问题。

最後の例17)は、一冊の翻訳書のまえがきから収集したのだ。しかし、このまえがきは日本語から訳したものではなく、訳者が自ら作成したものである。それにもかかわら

ず、外国人が書いた中国語のようなものになっているのもおそらく逆向転移に原因があると思われる。

4-2 整理と考察

§4-1 節に筆者が収集した典型的な逆行転移の例を紹介したが、その中から、いくつかのパターンが見いだせる。

①表記レベル

1. 日本語の文字表記をそのまま用いる。
2. 句読点を日本語の習慣に従ってつける。

②語彙レベル

3. 中国語にない表現をそのまま日本語から導入する。
→ 借用
4. 中国語にあるが、日本語の意味や使い方で使用する。
→ 混用
5. 日本語の表現を翻訳の過程を経て使用する。
→ 訳語

③文法レベル

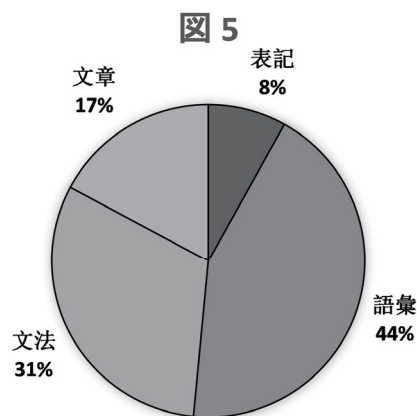
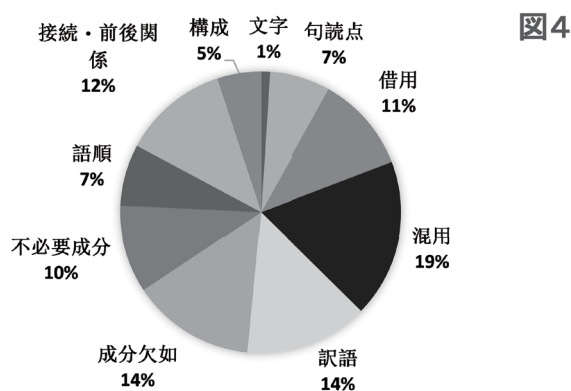
6. 日本語の構文で文を作ることによる文法成分の欠如
7. 不必要な成分の生成
8. 日本語の語順

④文章レベル

9. 前後関係や接続の問題
10. 文章構成の問題

出所が1(b~3)の用例の不自然な箇所にも全数調査を行い、各パターンが占める割合と各レベルが占める割合は、図4と図5のとおりである。

全体として、語彙の問題が一番多く、次に文法の類、文章レベル、表記という順番である。



5 おわりに

本稿は、学習する目標言語が母語に与える影響を「逆向転移」と命名し、筆者が収集した用例の一部を提示し、それぞれの文章の不自然なところを指摘し、最後に全数調査の結果を述べ、「逆向転移」の実態の初步的解明を試みた。

今までの研究に、語彙レベルの借用やコードスイッチングが認められたものの、文法レベルや文章レベルではどちらかという大きな変化は起こらないだろうという想定が多かった。ただし、本稿の内容はそれを覆すものとなった。

紙幅の関係で、全用例の紹介と分析は本稿においてはできず、一部引用があった 2011 調査の内容も紹介できなかった。それらの内容については今後さらに検討を重ね、ほかの場で発表したいと思う。

参考文献

a) 日本語の文献

Ellis,Rod (著)、牧野高吉 (訳) (2003 (原書 1997))『第 2 言語習得のメカニズム』筑摩書房

Sebba,Mark (著)、田中孝顕 (訳) (2013 (原書 1997))『接触言語：ビジン語とクレオール語』きこ書房

Weinreich,Uriel (著)、神鳥武彦 (訳) (1976 (原書 1953))『言語間の接触 — その事態と問題点』岩波書店

東照二 (2000)『バイリンガリズム — 二言語併用はいかに可能か』講談社

郭春貴 (2001)『誤用から学ぶ中国語』白帝社

金愛蘭 (2011)「20 世紀後半の新聞語彙における外来語の基本語化」『阪大日本語研究 別冊 3』

迫田久美子 (2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク：8-14

真田信治 (2005)「言語と方言」『事典日本の多言語社会』(真田信治、庄治博史) 岩波書店：347-348

(2006)『社会言語学の展望』くろしお出版

鈴木恵理子 (2013)「中国人日本語学習者の逆行転移 — 日本滞在期間に注目して —」『秋田大学国際交流センター紀要 2』：3-18

渋谷勝己 (2010)「移民言語研究の潮流：日系人日本語変種の言語生態論的研究に向けて」『待兼山論叢・文化動態論篇 . 44』：1 — 23

(2013)「多言語・多変種能力のモデル化試論」『コミュニケーション能力の諸相 (片岡邦好・池田佳子編)』ひつじ書房：29-51

徳川宗賢 (1978)「単語の死と生・方言接触の場合」『国語学 115』：40-46

野田尚史、渋谷勝己、迫田久美子、小林典子 (2001)『日本語学習者の文法習得』大修館書店

来思平、相原茂、喜多山幸子 (1993)『日本人の中国語 — 誤用例 54 例』東方書店

b) 中国語の文献

贺阳 (2008)『現代汉语欧化语法现象研究』商务印书馆

马西尼 (著)、黄河清 (訳) (1997)『现代汉语词汇的形成——十九世纪汉语外来词研究』中华书局

沈国威 (2010)『近代中日词汇交流研究：汉字新词的创制、容受与共享』中华书局

沈国威 (2011)「现代汉语“欧化语法现象”中的日语因素问题」

『東アジア文化交渉研究、別冊 7』：141-150』

沈家煊 (2011)『语法六讲』商务印书馆

王东志 (2009)「语言迁移研究的新视角：二语对母语的迁移」『北京第二外国语学院学报 (2009 年 12 期)』：14-21

王力 (1958)『汉语史稿』中华书局 (1980 版)

徐桂梅 (2012)「鲁迅小说语言中的“日语元素”解析」『鲁迅研究月刊 2012 年第 3 期』：45-51

俞理明、常辉、姜孟 (2012)『语言迁移研究新视角』上海交通大学出版社

朱一凡 (2011)『翻译与现代汉语的变迁 (1905-1936)』外语教学与研究出版社

c) 英語の文献

Chen, Fred Jyun-gwang. (2006) Interplay between Forward and Backward Transfer in L2 and L1 Writing: The Case of Chinese ESL Learners in the US.Concentric: Studies in Linguistics 32.1.:147-196

Cook, Vivian. (1991) The poverty-of-the-stimulus argument and multi-competence.Second Language Research 7 (2).:103-117

(ed.). (2003) Effects of the Second Language on the First.Multilingual Matters.:1-18

Trudgill, Peter. (2004) .Dialects (second edition) . Routledge

用例の出所

a) インターネット

発話者が特定されないよう、http アドレスの情報は一部伏せることにした。

また、本文中で議論したように、逆向転移は外国語の学習者ならだれもが経験していることであり、知的水準や母語能力とは関係がない。

アドレス	アクセス
http://www.163.com/content.dept?m=news&id=12360446763972948	2011/1/18
http://www.163.com.cn/product/dic/2010/books/j4.html	2011/1/19
http://www.163.com/forum/showthread.php?t=310173	2011/1/19
http://www.163.com.cn/product/dic/2010/books/j3.html	2011/1/19
http://www.163.com.cn/product/dic/2010/books/j6.html	2011/1/19
http://www.163.com.cn/product/dic/2010/books/j7.html	2011/1/19
http://www.163.com/Details.aspx?title=7DEC4461-0548-4511-A6BD-F6DFD138798E	2011/1/22
http://www.163.com/dai.ac.jp/imcts/h23pekinsetumeichn.pdf	2011/2/16
http://www.163.com/dai.cn/chinese-gb/news_y50.html	2011/2/16
http://t.cn/baidu.com/view/1079011.htm	2011/3/10
http://t.cn/zhiyinjip.com/userfiles/jianlimuban.doc	2011/4/6
http://www.163.com.cn/item/special/aromadiffuser/index.shtml	2012/9/16
http://www.163.com.cn/news/20120903_01.shtml	2012/9/16
http://www.163.com/baidu.com/~hirune/profile.html	2013/1/8
http://www.163.com.cn/product/dic/ZU10/books/j11.html	2013/1/8
http://www.163.com.cn/cn/store/	2013/3/2
http://www.163.com/cn/technology	2013/3/2
http://www.163.com-pci.com/cn/stories/index.html	2013/3/2
http://www.163.com-group-china.com/cn/customer.html	2013/3/2
http://www.163.com-group-china.com/cn/detailed_description.html#	2013/3/2
http://t.cn/baidu.com/photo/p?kw=oricon&flux=1&tid=2553505406&pic_id=2019ab4bd11373f0417d6e42a50f4bfbfaed0403&pn=1&fp=2&see_lz=1	2013/8/25

b) 印刷物

a) と同じく、発話者が特定されないよう、著者と書誌情報の一部を伏せる。

書名	出版社	出版年
日本語辞典	外語出版社	2003
日語文法	上野出版社	2007
近代中国語の共学	中国語出版社	2010

注

- 1) 「外国語」という言い方はあくまでも政治的あるいは社会的に国と国の境界線によって人為的に「母国語」と区別されている。実際オランダ語とドイツ語のように、外国語同士であっても言語学的に極めて近似しているものもあれば、広東語と上海語のような、一括して「中国語」と呼ばれながらも互いに意思疎通がほぼ不可能なほど異なる言語変種もある。
- 2) 「母語」は普通「幼時に母親などから自然な状態で習得する言語。第1言語。母国語」と国家意識が加わる」と解釈されるが(『広辞苑』(第6版))、出生した国、実際の国籍、両親の操る言葉、幼少期の生活状況などによって、簡単に判断できないこともあり、さらに、方言などの言語変種の差異をも配慮すれば、母語、母国語、第一言語はそれぞれ異なる言語(あるいは言語変種)を指すこともありうる。詳しくは迫田(2002:9)など。
- 3) 注1と注2にも言及したように、なにをもって別言語とするかは言語学的特徴より政治的、社会的な要素によるところが多い。真田(2005:347)をも参照してもらいたい。
- 4) 以下特記しない限り、訳文はすべて筆者が訳出。
- 5) 本来中国語から入ってくる「漢語」も「外来語」とすべきであるが、現在一般に言う「外来語」は「漢語」以外の主として西欧からはいつてきた語を指す。ここでも後者を指すが、「漢語」としての中国語を受容する仕組みは16世紀以降西欧の言葉を吸収する仕組みそのものと考えても差し支えないだろう。
- 6) 「普く通ずる話」という意から、現代中国語の標準語／共通語。北京語の音韻体系を標準音に、北方語の語彙を基礎とし、模範となる現代白話文の著作を文法の規範としている。
- 7) 本来*は非文(不適格)情報を表し、不自然な文を?や??で示するのが慣習であるが、本稿では非文も不自然な文も一括して*で示す。実際、ある文が自然かどうか、ひいては不適格かどうかは人によって判断がかなり分かれることが筆者が行ったほかの調査で明らかになった。
- 8) 写真や図は特注しないかぎり、すべてインターネットより収集したものである。アドレス情報などは巻末の付録を参照してください。ただし、情報の一部を伏せて(○○に変換するなど)の公開となる。
- 9) 特記しない限り、トリリンガルやマルチリンガルなど、すなわち二つ以上の言語を使用することをも含む。
- 10) また、複数獲得した言語のなかで、もっとも優勢な言語を指す場合もある。
- 11) 本稿では、習得も獲得も「acquisition」と訳語として、特に母語に関しては厳密に分けない。
- 12) もともとは心理学の用語で、「前に学習したことがその後の学習に影響を及ぼすことをいう。そして、前学習が後の学習を促進する時には正の転移(positive transfer)、妨害するような場合には負の転移(negative transfer)とよんでいる。」(有斐閣『心理学辞典』1999より。一部句読点変更。)
- 13) 二つの事柄を記録・学習した際に、後続の学習(第二学習)により先行の学習(第一学習)が阻害されること。実験的には、第一学習・第二学習の後で第一学習のテストを行うと、第二学習を行わなかった場合に比べて、第一学習の成績が低下していることをさす。(有斐閣『心理学辞典』1999より。一部句読点変更。)
- 14) 発話者や著作者が簡単に同定されないよう、ここではアドレス情報や書名等を触れない。詳しくは巻末の付録・資料を参照してもらいたい。なお、巻末のデータもipアドレス、書名や著者、出版社等の情報を一部伏せてから公開することにした。用例のような不自然な中国語表現を用いたのは事実だが、本稿を通してわかるように、こういう逆向転移現象の発生は発話者の知的レベルと母語能力とは関連性がなく、外国語との接触によって発生するものであるということも改めて強調したい。
- 15) 日本語も普通は被災者などに提供するものとネイティブからの指摘があった。